



第23回 ^{だい} ^{かい} アイム・ジャパン ^{さくぶん} 作文コンクール

優秀賞

題名 『自分自身を磨きます』

しめい 氏名	クラデア クルニア プロリ スティヨノ
しゅっしんこく 出身国	インドネシア
かいしゃめい 会社名	社会福祉法人両宜会
しょくしゆ 職種	介護
たんとうしきよく 担当支局	埼玉支局
にゅうこくび 入国日	2019年 ^{ねん} 12月 ^{がつ} 5日 ^{にち} 2年目

自分自身を磨きます

ワラオデア リルニア

日本の介護の施設で働くことは今まで想像もしていなかったことです。私は介護の知識がなく、高齢者のお世話をしたこともありません。両親の祖父母は私が10歳の時に亡くなったので、祖父母の面倒を見れませんでした。そこで、日本に初めて来た時、介護の仕事はできるかなと不安でした。しかし、「介護の仕事は大変ですが、やりがいのある仕事」と日本のトレーニングセンターの池田先生が説明してくれました。それで先生の言われた事を思い続けています。やりがいとは、その仕事で得られる楽しみや充実感などが当てはまるという意味です。

日本に来てそろそろ2年たちます。施設で働き始めた時、2つの基本的な問題に遭遇したと思います。一つ目はボディメカニクス移乗介助、二つ目は利用者さんとコミュニケーションでした。介護の仕事にて移乗や移動介

助は身体に負担がかかると言われます。つまり、利用者さんを安全に介助する為には基本的ボディメカニクスをしっかりと理解する上に、介助者の身体の負担を軽減する介助方法を身につけることが必要です。したがって、職場にて職員の様子を見る以外に、家では移乗・移動介助の基本に関するユーチューブの動画を繰り返し見たり、運動したりしました。ある時、副主任は私があまり使われていない移乗介助を見て「そのやり方をどこで学びましたか？」と尋ね、私は「間違いましたか？」と返事をしました。副主任は「正しいよ」と言われ、私はこの前仕事ができなかったのので、ユーチューブの動画を繰り返し見て、利用者さんの状態に合った移乗介助を見つけられるようになり、やっとできました。

数ヶ月は日本人の職員が私を受け持っていていましたが、一人でユニットの担当をしてみるときが来ました。各ユニットは10名利用者さんがいらっしやう、レクレーション時間の時

は何をしたらいいか自分でなかなか決められ
ませんでした。副主任の許可を得て、私が作
ったN2の漢字カードを使用しました。利用
者さんに作った漢字を一つずつ読んでもらい
ながら私は漢字の読み方を聞いて覚えられて
います。その上に利用者さんの為に、認知症
を防ぐことが出来ます。それで、私が分から
ない漢字の意味を利用者さんに聞いて、利用
者さんの雰囲気をもっと楽しくするコミュニ
ケーションになると思います。良いコミュニ
ケーションができたなら利用者さんが寂しくな
らなく、私も仕事をもっと熱心になります。
知識や経験がない事に対して、間違えると
落ち着きがなく、恐れに悩まされます。しか
し、新しいことや難しいことを挑戦すれば、
新しい発見や深い学び、ましてや成長があり
ます。これからは、誇れる自分の美点を探そ
うと思います。